

# 医療介護における 国際交流の役割

北九州市小倉医師会 外国人看護師支援事業担当理事  
原田 嘉和

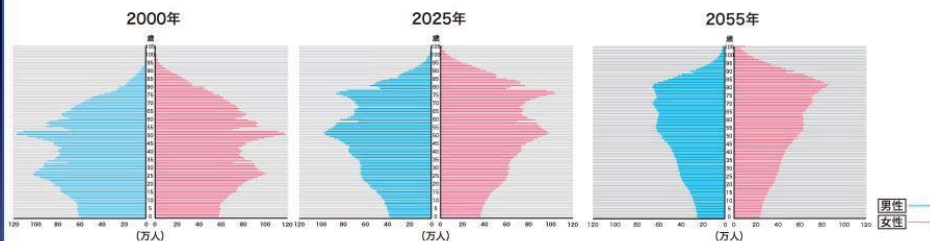
## ・日本の医療・介護の現状と予想される将来像

- ・少子高齢化・・・2025年～問題  
(北九州市高齢化率:約30%)
- ・高齢化・・・疾病罹患・介護需要の増加
- ・少子化・・・医療・介護従事者の不足

地方の医療・介護の現場は、すでに喫緊の課題！

## ・インドネシア(東南アジア)の医療のお話

### 人口ピラミッドの変化



20～64歳人口の65歳以上  
人口に対する比率

3.6  
(総人口  
1億2,693万人)

1.8  
(1億1,927万人)

1.2  
(8993万人)

(注) 総人口のピークは、2004年の1億2,779万人。  
(出典) 「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所、平成18年12月)による。

## 「新たな看護職員確保に向けた総合的な対策」の必要性

### 看護職員を取り巻く現状と課題

- ・偏在等を背景とした、「看護職員不足」についての医療現場の指摘
- ・夜勤・交代制勤務など厳しい勤務環境とワークライフバランス確保
- ・社会保障・税一体改革の推進に向けたマンパワー増強の必要性

- ・看護職員の必要数 約15年で +50万人
- ・少子化が進む中、抜本的な看護職員確保対策が不可欠

## 「新たな看護職員確保に向けた総合的な対策」

2011(H23)年 看護職員  
約150万人  
2025(H37)年 看護職員  
約200万人  
50万人必要

医療・介護サービス提供の改革の向上に向けたマンパワー増強  
少子化の進展で、今後、この水準維持のためには何らかの対策が必要  
離職等による減少 約2.4万人/年  
新規資格取得者 約4.9万人/年  
2.5万人/年の増加  
潜在看護職員約 71 万人(※推計値)

## インドネシア(東南アジア)の 医療のお話を少し

日本政府 (2008年～)  
EPA制度による外国人看護師事業  
現在合格率:約10%前後



小倉医師会 (EPA制度サポート)  
外国人看護師・再チャレンジ支援事業

## 日本の医療・介護システム

- ・医療皆保険制度
- ・介護保健制度
- ・医療・介護技術の継続的進歩
- ・医療介護従事者による多種職連携システム  
(医師・看護師・薬剤師・放射線技師  
・栄養士・検査技師・理学療法士・運動作業療法士  
・介護福祉士・ヘルパー・公衆衛生 等)

## 医療介護における国際交流の役割

日本における2025年～医療介護課題の一助



新興国における医療福祉介護システムの進展



医療介護による言葉を超えた人間同志の信頼関係  
(お互いの文化や歴史理解を含め)



医療介護による深い国際交流